異文化経験とライフコース
——帰国子女受け入れ高校の調査結果から——

竹　田　美　知

はじめに

海外に拠点を持つ多国籍企業の増加や海外へ成功の機会を求めて人的移動が活発化している今日、海外移動の可能性はますます高まっている。こうした異文化経験を得た個人による移動国の文化への適応さらに帰国後の母国文化への適応については、すでに多くの業績がある。しかしこうした異文化経験を年少時に得た若者がどのように自国の外国人を認識するか、また異文化経験がその後のライフコースにいかに影響するかに関しては研究成果は少ない。本報告の目的は第1に異文化経験を持った若者と異文化経験を持たない若者ではどのように、母国の外国人に対する認識に差がでるか、第2に異文化経験が、彼らのその後のライフコース、特に進学・就職・結婚などの国際性や海外移住などにどのように影響するかを明らかにすることである。

理論的枠組み

異文化体験にもいろいろな種類がある。例えば海外団体旅行の場合案内人がおり、外国語をさほど使うチャンスも少ない。自分は自国の文化環境の中にとどめて於いて外国の文化をさながらオペラグラスで観戦するような旅行はダグラス・ラミスによると、「潜水艦の旅行」といわれる。これに対し同じ旅でも異文化の中に身を置き生活を共にしたり、外国人と共に働いたり感動と共にするような FACE—FACE の直接的接触を基本とするものは、時として自分自身の持っていた価値観の変容をも伴う。「個人や集団が直接的接触や相互作用を通じて他の個人や集団の文化的特性を習得する過程」を文化接触変容というが、ここではこのような文化接触変容のチャンスをもたらす体験を異文化体験と考える。

黒木は、このような異文化体験を可能にする異文化接触の契機を移動の有無と、接触における選択の有無を両軸にとり図のような分類をした。黒木によると、「図の1と2は個人が移動することによって出会う異文化接触で、3と4は自国で出会う異文化との接触です。また1と3は個人にとって選択の余地の少ない政治的要因が左右する異文化接触で、2と4は主に個人にとって選択可能な経済的・文化的要因による接触です。」と説明している。

また黒木は「たとえば帰国子女の中には、両親が選択した移動であっても、子どもにとっ

ては選ぶことのできない場合もあります。」として領域1に分類されている移動の中に必ずしも政治的要因によらないしかも選択できない接触もあることを認めている。たとえば年少時に海外赴任したような今回の対象高校の帰国子女の多くは、渡航にあって自らの意志決定が反映されたかどうか（選択の可能性があったかどうか）を考えてみると、家族の決定によって渡航した場合が多いと思われるので、個人にとって選択の余地の少ない異文化接触すなわち領域1に属すると 考えた方が妥当である。この分類軸に従って今回の調査の目的を分類すると、調査の第1の目的である外国で幼少時に異文化体験を持った者がいかに自国の中で出会う異文化を認識するかという枠組みは領域1から領域4への分析と言い換えることができる。また調査の第2の目的である幼少時に異文化体験を得た者が再び選択的に異文化体験の機会を作るかどうかについては、領域1から領域2への分析であると解釈できよう。

調査方法・調査対象プロフィール

関西における帰国子女受け入れ校であるK高校の協力を得て1998年2月に同校の高校1年生を対象に調査を実施した。調査は質問紙法をもちい、留め置きをした。回収票247票中、その構成は帰国生161名、一般生（海外経験が1年に満たない者もしくは海外経験のない者）71名、不明15名であり、男女比は同数であった。

帰国者の海外居住年数は3年から5年未満が32.2%、5年から7年未満24.7%、7年から10年未満19.9%、10年以上14.4%と比較的長く、家族とともに渡航していた。海外居住国は、アメリカが最も多く61.4%西ヨーロッパ36.7%カナダ21.5%と西欧諸国がほとんどを占め東南アジア諸国は17.7%にしかすぎない。

また、一般生の中に1年以上の海外居住をした生徒はなく、海外経験の無い者も45.1%いる。

そこで先ほどの調査枠組みに従い、帰国生徒を領域1ととらえ、異文化体験経験群と考えた。比較対象群としてこのような異文化体験を持たない一般生群を設定し、日本における外国人に対する認識（領域4）や将来のライフコースにおける異文化体験の選択性（領域2）に関する比較を試みた。

調 査 結 果

1　生徒を取り巻く家族や教育環境と外国人に対する意識

{自宅における外国人のホームステイ受け入れ経験}

表1のように帰国生徒の家庭の約20%近くがホームステイを受け入れた経験があるのに対して、一般生の7%しか受け入れ経験がない。帰国生は家族で海外に暮らした経験を持つので、外国人のホームステイについても語学や習慣の面で積極的に受け入れる条件が揃っているということと、海外から帰国しても海外生活で得た友人が帰国後、日本に尋ねてくる機会

も多いのでこのような結果になったと考えられる。

{学校生活における外国人教師の有無}

表2のように帰国生の57%は小学校の時から外国人教師に教わった経験を持っている。ということは、小学校時代を約半数以上が外国の学校に通っていた経験を持っている。中学校時代は帰国生も一般生も約80%が外国人教師と接する経験を持っており、中学からの英語学習の開始によって一般生と外国人教師との交流がスタートすることがわかる。

{外国人についての家族の考え}

表3のように外国人のよい風評を家族から聞いているのは帰国生に多く、外国人について、家族と話す機会を持った者も一般生より多い。その一方で外国人の悪い風評を聞いた者も一般生より帰国生に多く、外国人についての風評はよい傾向や悪い傾向といった一つの傾向に偏るのではなく分散している。また表4のようにこのような家族の外国人に対する考えを聞いた時は、帰国生のうち16.8%が小学校以前といった早い時期を答え、小学校低学年までには、約35%近くが聞いている。それに比して一般生のほとんどは小学校高学年およびその前後に集中している。海外生活を送る中で、外国人についての話題が比較的幼少の年代から話題になっていることがわかる。

2　生徒の現在における外国人との交流

{外国人との交流経験}

表5のように過去にも現在にも外国人と交流のない一般生が31%いるが、現在外国人と交流している一般生は54.9%と帰国生47.2%を上回っている。このK高校が国際理解教育に力を注いでいることで志願をした一般生も多いので、いきおい入学してからの外国人との交流にも積極的であることが予測される。またそれに対して帰国生は過去に親しくした経験のある者が43.5%となっているのは、海外生活における現地の外国人との交流があったが、現在は交流が途絶えている者も少なくないことがわかる。帰国生の中で外国人と接した経験のない者が8.1%いることは、海外生活を送っていても、現地の人々との交流がそれほど活発でなかったか、記憶に残っていないケースと思われる。

{接した外国人の感想}

表6のように特徴的なのは、日本人より付き合いやすいと答えた学生が帰国生の中に27.4%いることである。帰国生が異文化の中で長期間生活した結果、心理的に自文化（日本文化）より、居住国の文化により親近感を持ち帰国後も異文化と自文化の中で揺れ動くことはこれまでの研究で知られている。外国人との交流においても、日本人よりさらに親近感を持った

交流と答えたのも異文化への適応の結果と理由づけることも可能である。しかし、帰国生全員がそのような傾向であると結論づけるのは今回の調査結果からは正しくない。帰国生の中にも、多少違和感があると答えた者も17.8%おり、付き合いにくいと答えた者も若干ではあるがいる。帰国生の中にも様々の文化変容度があり、一つのタイプで説明することはできない。表７からは調査前に予測されたように異文化経験の少ない一般生の方が、帰国生より多少違和感があると答えた者が多い。この理由として、表７のように外国人と接する時の不安を聞いてみたところ、一般生の77.5%が「会話が難しい」という語学の不安を上げている。さらに「常識が通用しない」32.4%、「なんとなく気詰り」と答えた者も約20%近くおり、経験のなさがこうした不安を増長させているものと思われる。それに比して帰国生の中で「会話が難しい」と答えた者は、46.6%とかなり少なくなるが依然としてコミュニケーション上の障害を感じる者も約半数いる。また、「常識が通用しない」と習慣や文化の違いを上げた者も約30%近く存在する。帰国生の中にも自文化と異文化との間でいろいろな適応のパターンがあることがわかる。しかし帰国生が30%近くが不安がないと答えたところを見ると、一般生よりは文化や、言葉に関する問題も日本における外国人との交流において障害が少ないことが調査結果より読み取れる。

{路上で外国人と気がついた時の行動}

一般生は「思わず振り返った人」が半数を占めるのに対して、帰国生は「特に意識しなかった」と答えた人が41%と一番多くついで「手助けしようとした」と答えた人が36%と積極的に関わろうとする人が多い。（表８）外国人だからといって、特に意識をしていないのは帰国生の方であるが、またその一方で自分自身が外国において経験した不自由を思い浮かべて、助けようとする姿勢もうかがえる。

{日本で働く外国人に対する意識}

表９のように帰国生の方が日本における外国人の増加が顕著であると考える人が多く、一般生にとっては毎年の少しずつの変化ととらえられることも、帰国前と帰国後に時間の経過があるためか大きな変化として感じられている。また日本における外国人の生活水準について質問したところ、一般生はいろいろな水準の人がいると答えた人が63.4%を占めるのに対して帰国生は日本人と同じ水準と答えた人の割合が一般生より高い。また日本人より水準がやや高いと答えた人の割合も高い。（表10）

このような外国人に対する人権に対する意識については、外国人の日本における就職の是非、外国人の参政権の是非に関しては帰国生と一般生についてほとんどの項目で有意差は見い出されなかった。しかし外国人の職業が限定されていることに対しては、帰国生の方が約半数が許容しているのに対して、一般生の方が職業に限定を設けることについて反対の者が

70%近くに上っている。(表11) これは帰国生は実際に外国で暮らすにあたって、ビザの取得などの機会に諸外国でも外国人の職業が限定されている事実を知り、日本だけが特別に制限している訳ではないことを理解しているからだと思われる。また有意差は得られなかったが、日本人が就きたがらない職業に外国人が就くことに関して、帰国生の方が「押し付けるのはよくない」と考える人が多くマイノリティーとしての外国人の人権に敏感である。(表12) また「日本人と同じ医療が受けられない」という問題に関しても一般生の中で約1割が「仕方ない」と答える人がいるのに対して、帰国生は5.6%しかいない。(表13) 外国での医療問題の緊急性を体験しているがゆえに、日本における外国人の医療問題に関しても見過ごすことはできないと考えている。

3　異文化経験がライフコースに与える影響

{異文化経験と海外就職}

表14のように海外就職に関しては一般生も帰国生もほとんど変わらない傾向を示している。筆者が行った大学生対象の同じ質問文の調査と比較すると「どのような状況でも行く」と答えた人の割合が大学生6.3%に対してK高校においては帰国生、一般生ともに20%程度と高い。海外就職については個人の持つ異文化体験よりも国際理解教育がどの程度おこなわれているかということの方が大きな影響力を持つことがわかる。

次に「海外就職をするならどの時期が望ましいか」という問いに対して帰国生は「いつでもよい」と答えた人が多いのに対して、一般生は「独身の時」と答えた人が多いのがわかる。(表15) また一般生のうち、「子どもを持った後」と答えた人が約3%にすぎないのに対して、帰国生の11.4%は子どもを持った後でもよいと考えている。実はこの質問に関しては、生徒の「家族に対する考え方」が大きく影響したと考えられる。というのは「結婚後は家族中心の生活をすることに賛成かどうか」という設問では、帰国生のほうが、家族中心の生活に賛成と答えた人が多かったからである。(表16) 帰国生は家族という単位で海外渡航を経験し、親の海外就職というライフコースのターニングポイントにおいても家族ぐるみの移動を選択したという経験を持っている。そのような家族の紐帯を職業的移動の契機に維持したという事実がやはり子どもであった帰国生の海外就職の渡航時期選択にも影響を与えている。

海外就職に対する積極性に関しては、帰国生と一般生とでは差がなかったが、次に海外就職の不安点について質問したところ、表19のように一般生は海外就職の不安点は語学にあると答えた人が多く、不安がないと答えた人はいなかった。それに対して帰国生は18.6%が不安なしと答えている。また語学以外に帰国生の不安が少ないのは、取り引き業務・社会保障の仕組み・人間関係・収入などの不安に関してであり、親の海外就職体験が子どもの海外就職の不安をやわらげていることがわかる。K高校の帰国生の親に多国籍企業に勤務する人が多く、海外渡航時の雇用条件や収入に関して日本企業から保障されているケースが多かった

こともこの調査結果に影響を与えていると思われる。

{異文化体験と国際結婚}

表18のように、国際結婚に関しては一般生のほうが許容的である。帰国生は「外国人と結婚したい」と答える積極的な者が4.3%いるけれども、「日本人と結婚したい」44.1%、「外国人と結婚したくない」12.4%と国際結婚に関しては消極的である。その理由を「国際結婚に関する不安」に求めてみると、帰国生と一般生で有意差は得られなかったが、帰国生のほうが「子どもの教育」や「子どもの言葉の問題」に不安を持つ人が多く自分自身が異文化の中で揺れ動いた経験から、「国際結婚」という永続的な異文化との繋がりに慎重な姿勢を示している。先の「海外就職」が一次的な海外への職業移動であり、フォーマルな人間関係が異文化との関わりの焦点となるのに対して、「国際結婚」は永住の可能性もありしかもインフォーマルな人間関係が続くわけである。帰国生はどんな形にしろリターナーである性格上、異文化の間を行ったり来たりした経験をもっているが、生活の基盤はやはり日本にある。「国際結婚」というのはこの生活の基盤自体を海外に移す可能性があり、しかも自分自身だけでなく生まれた子ども達の文化基盤も左右するという深い読みからこのような国際結婚に対する慎重な姿勢が生まれたのではないだろうか。

{異文化体験と海外移住}

海外移住に関して帰国生と一般生の間では有意な差は見い出されなかったが、帰国生の方が人生のある時期暮らしたいと答えた者が45.3%に上るのに対して、一般生は行ったり来たりしたいという定住型よりコミュート型を選ぶ傾向がある。そこで外国に住む不安に関して差をみると、帰国生と一般生の間に有意な差が得られた。一般生の不安が言葉の問題や治安の問題、風俗・習慣に集中するのに対して帰国生の不安は言葉の問題がやはり第1に上げられているが不安は分散する傾向にあり、不安のない者も13%いる。(表19) 特に帰国生の不安の中で特徴的なのは「子どもの教育」を上げる人が多いことである。先ほどの「国際結婚」に関する不安と同様、自らが体験した教育に関する問題、例えば母国語と現地語との習得バランスや教育制度の違いなどに対しての気づかいが伺える。しかし海外に移住したい時期を聞くと帰国生の方が、子ども同伴の時期を上げるものが31.7%にも上り、一般生の46.5%が独身の時と答えたりまた退職後12.7%と答えるのに対して対照的である。「子どもの教育」に不安は残るが、海外就職と同様海外移住についても家族ぐるみの移動を考える帰国生は、家族全体の結びつきを重視し不安の中身も移住先の社会環境上の問題（言葉、文化、治安）よりも移動が家族に及ぼす影響に敏感であることがわかる。それに対して一般生は個人単位の移動を考える傾向にあり、不安は移住先の社会環境上の問題に目を向けがちである。

{異文化体験と海外留学}

表20のように一般生の方が海外留学に関しては積極的である。特に帰国生のほうに海外留学をしたくない者が少なからずいる。これまで海外の学校を経験して、日本の学校に返ってきた帰国生だからこそ、海外留学の希望が少なかったともいえる。また国際教育に力をいれている高校を自ら選択した一般生だからこそ、海外留学の希望や海外へのあこがれも強いともいえよう。留学先の学校種を聞くと、一般生はそのあこがれを表わすかのように高校レベルでの留学も約3割近くが考えており、帰国生の場合大学以上を希望する者が多いのも先に述べたような理由によると考えられる。さらに留学したい国について聞くと、表21のように帰国生は滞在国であった西欧諸国に重なる傾向がみられるが、一般生の場合、東南アジアなどを含めて多種の国を留学先に選ぶ傾向がある。留学の理由に関しても、帰国生の場合学位取得や専門・新規の分野などの専門性を求める傾向に対して、一般生の場合、語学や国際的思考といった教養的な理由を上げる者が多い。また海外留学の不安に関しても表22のように帰国生は取得した単位の有効性や就職活動における留学の有効性など留学後の実利的な面における不安まで考えるのに対して、一般生の場合は語学の問題や治安の問題など留学中の不安を上げている。

ま と め

異文化体験をライフコースの早い段階で得た者は、そうでない者に比して日本における外国人との交流頻度や外国人に対する認識、将来のライフコースにおける異文化体験の選択性に関して特に積極的であるという仮説に関しては肯定できる調査結果は得られなかった。それどころか、高校生段階における外国人との交流頻度、さらに国際結婚、海外留学に関してはむしろ異文化経験を持たない一般生の方が積極的であるという結果を得た。この量的に測定された外国人との接触という観点においては、理論枠組みで設定された異文化体験が個人の価値観の変容を生み出し、その後の個人のライフコースに影響を与えるという仮説は否定された。しかし質的に外国人との交流における不安や今後のライフコースにおける外国人との関わり合いをみると、帰国生と一般生では人間関係にまつわる不安の有り様が違っている。現在の外国人との交流や将来の海外就職、海外移住、留学に関して不安なしと答える者は帰国生に多く、特に語学や風俗、習慣などの文化、治安などに関しては不安が少ない。それに比して一般生の方は外国人と接触の意欲は強いが、語学や人間関係、文化、治安に関して不安が多い。現在の外国人との交流に関して接触した感想を聞くと帰国生の方は、むしろ日本人よりも付き合いやすいと答えた者も3割近くに上り、密度の濃い交流であることがうかがえる。また、将来のライフコースにおける海外就職、海外移住に関して、帰国生は家族ぐるみの移動を想定してこうした海外への移動が家族に与える影響を心配するのに対して、一般生の場合個人的移動を前提とし不安も職業上やフォーマルな場面における人間関係に対する不安が大半を占めている。

異文化体験が帰国生に影響を与えているという仮説はこうした質的な外国人との接触のあり方においてのみ検証された。また、異文化に対するあこがれや実際に異文化体験を持たなくても異文化体験を持つ者と場を同じくして国際理解教育をうけたという教育的効果も見逃せない。こうした帰国生と教育の場を同じくすることによって効果的な国際理解教育が進められ異文化接触への動機づけが進めば、海外において異文化体験を持たない者でも外国人との交流頻度が高まるだけに留まらず、さらに交流のあり様自体も自然体で人間関係上の不安も減少するようになると考えられる。この調査は1998年度文部省科学研究費萌芽的研究の補助および、1998年度相愛学園特別研究費の補助を受けたものである。今回の調査にあたって、同志社国際高校1997年度第１学年の先生方の協力をいただいたことを感謝します。

参考文献

黒木雅子、1996、「異文化論への招待」、朱鷺書房

ラミス・ダグラス、1981、加地永都子訳、「内なる外国 ―『菊と刀』再考」、時事通信社

図　異文化接触の契機

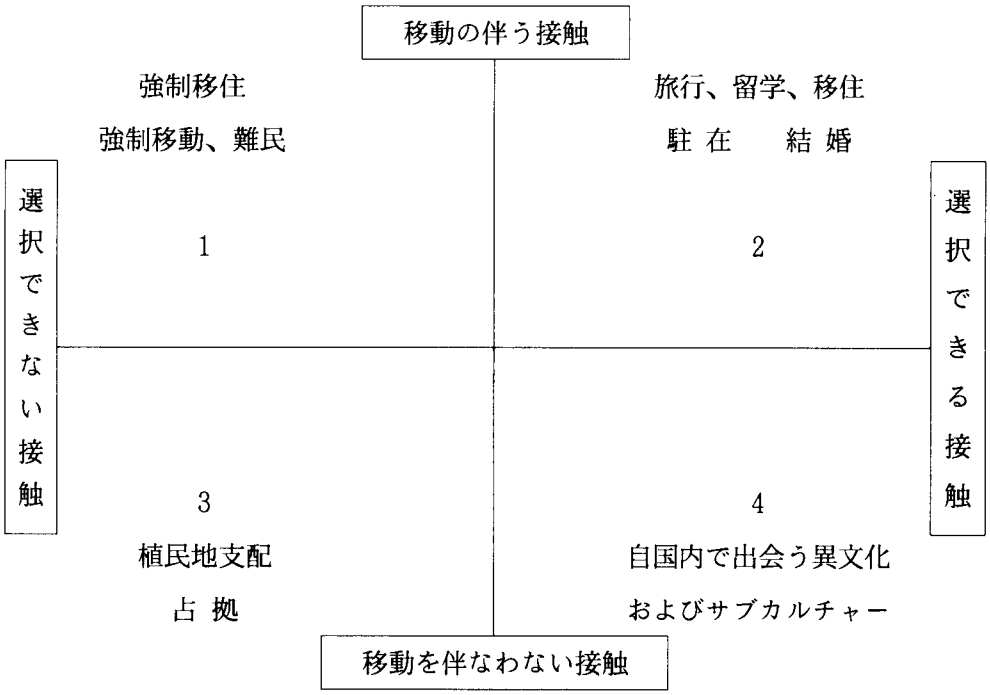

表 1　自宅でのホームステイ受入体験

	X軸合計	ある	ない	不明	非該当
Y軸合計	247 100.00	38 15.38	206 83.40	3 1.21	0 0.00
帰国生	161 100.00	32 19.88	127 78.88	2 1.24	0 0.00
一般生	71 100.00	5 7.04	65 91.55	1 1.41	0 0.00
不　明	15 100.00	1 6.67	14 93.33	0 0.00	0 0.00
非該当	0	0	0	0	0

カイ自乗検定　P＜0.05

表 2　学校における外国人教師の勤務

	X軸合計	小学校の時勤務	中学校の時勤務	高校の時勤務	教わったことはない	不　明	非該当
Y軸合計	247 100.00	102 41.30	216 87.45	195 78.95	7 2.83	3	0
帰国生	161 100.00	92 57.14	144 89.44	130 80.75	2 1.24	2	0
一般生	71 100.00	3 4.23	57 80.28	54 76.06	5 7.04	1	0
不　明	15 100.00	7 46.67	15 100.00	11 73.33	0 0.00	0	0
非該当	0	0	0	0	0	0	0

カイ自乗検定　P＜0.0001

表 3　外国人についての家族の考え

	X軸合計	特定外国人の良くない風評	外国人一般の良くない風評	外国人一般の良い風評	特定外国人の良い風評	話したことがない	不　明	非該当
Y軸合計	247 100.00	38 15.38	11 4.45	58 23.48	31 12.55	91 36.84	18 7.29	0
帰国生	161 100.00	23 14.29	10 6.21	41 25.47	26 16.15	50 31.06	11 6.83	0
一般生	71 100.00	11 15.49	1 1.41	13 18.31	3 4.23	37 52.11	6 8.45	0
不　明	15 100.00	4 26.67	0 0.00	4 26.67	2 13.33	4 26.67	1 6.67	0
非該当	0	0	0	0	0	0	0	0

カイ自乗検定　P＜0.005

表 4　家族の考えを初めて聞いた時期

	X軸合計	小学校入学以前	小学校低学年	小学校高学年	中学校時代	高校時代	話したことはない	不明	非該当
Y軸合計	247 100.00	35 14.17	41 16.60	49 19.84	44 17.81	7 2.83	58 23.48	13 5.26	0
帰国生	161 100.00	27 16.77	29 18.01	32 19.88	29 18.01	3 1.86	31 19.25	10 6.21	0
一般生	71 100.00	5 7.04	10 14.08	16 22.54	10 14.08	4 5.63	24 33.80	2 2.82	0
不明	15 100.00	3 20.00	2 13.33	1 6.67	5 33.33	0 0.00	3 20.00	1 6.67	0
非該当	0	0	0	0	0	0	0	0	0

カイ自乗検定　P<0.05

表 5　外国人との関わり

	X軸合計	現在親しくしている	親しく接した経験がある	過去にも接した経験がない	不明	非該当
Y軸合計	247 100.00	122 49.39	87 35.22	36 14.57	2 0.81	0
帰国生	161 100.00	76 47.20	70 43.48	13 8.07	2 1.24	0
一般生	71 100.00	39 54.93	10 14.08	22 30.99	0 0.00	0
不明	15 100.00	7 46.67	7 46.67	1 6.67	0 0.00	0
非該当	0	0	0	0	0	0

カイ自乗検定　P<0.0001

表 6　接した外国人に対する感想

	X軸合計	日本人より付き合いやすい	特に日本人と変わらない	多少違和感がある	付き合いにくい	その他	不明	非該当
Y軸合計	209 100.00	44 21.05	113 54.07	39 18.66	2 0.96	6 2.87	5 2.39	38
帰国生	146 100.00	40 27.40	69 47.26	26 17.81	2 1.37	5 3.42	4 2.74	15
一般生	49 100.00	2 4.08	34 69.39	11 22.45	0 0.00	1 2.04	1 2.04	22
不明	14 100.00	2 14.29	10 71.43	2 14.29	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1
非該当	0	0	0	0	0	0	0	0

カイ自乗検定　P<0.01

表 7　外国人と接する時の不安点

	X軸合計	会話が難しい	常識が通用しない	なんとなく気詰まり	その他	不安なし	不　明	非該当
Y軸合計	247 100.00	136 55.06	75 30.36	30 12.15	3 1.21	59 23.89	4 1.62	0
帰 国 生	161 100.00	75 46.58	48 29.81	15 9.32	3 1.86	48 29.81	2 1.24	0
一 般 生	71 100.00	55 77.46	23 32.39	14 19.72	0 0.00	5 7.04	2 2.82	0
不　明	15 100.00	6 40.00	4 26.67	1 6.67	0 0.00	6 40.00	0 0.00	0
非 該 当	0	0	0	0	0	0	0	0

カイ自乗検定　P<0.0005

表 8　外国人と気がついた時の行動

	X軸合計	思わず振り返ったりした	英語で話しかけた	手助けしようとした	話されると困るので避けた	特に意識しなかった	その他	不　明	非該当
Y軸合計	247 100.00	101.00 40.89	38.00 15.38	69.00 27.94	8.00 3.24	96.00 38.87	5.00 2.02	0.00 0.00	0.00
帰 国 生	161 100.00	58 36.02	27 16.77	58 36.02	4 2.48	66 40.99	3 1.86	0 0.00	0
一 般 生	71 100.00	38 53.52	8 11.27	7 9.86	4 5.63	24 33.80	2 2.82	0 0.00	0
不　明	15 100.00	5 33.33	3 20.00	4 26.67	0 0.00	6 40.00	0 0.00	0 0.00	0
非 該 当	0	0	0	0	0	0	0	0	0

カイ自乗検定　P<0.005

表 9　身の回りの外国人の増加

	X軸合計	大いに感じる	ある程度感じる	あまり感じない	ほとんど感じない	不　明	非該当
Y軸合計	247 100.00	51 20.65	114 46.15	64 25.91	18 7.29	0 0.00	0
帰 国 生	161 100.00	35 21.74	70 43.48	39 24.22	17 10.56	0 0.00	0
一 般 生	71 100.00	10 14.08	38 53.52	23 32.39	0 0.00	0 0.00	0
不　明	15 100.00	6 40.00	6 40.00	2 13.33	1 6.67	0 0.00	0
非 該 当	0	0	0	0	0	0	0

カイ自乗検定　P<0.01

表10　　日本で働く外国人の生活水準

	X軸合計	水準高し	やや高い	同じ水準	やや低い	水準いろいろ	わからない	不明
Y軸合計	247 100	11 4.5	18 7.3	34 13.8	42 17	117 47.4	24 9.7	1 0.4
帰国生	161 100	5 3.1	14 8.7	26 16.1	30 18.6	68 42.2	17 10.6	1 0.6
一般生	71 100	3 4.2	2 2.8	5 7	11 15.5	45 63.4	5 7	
不明	15 100	3 20	2 13.3	3 20	1 6.7	4 26.7	2 13.3	

カイ自乗検定　P<0.05

表11　　就ける職業が限定されている

	X軸合計	仕方がない	どちらともいえない	改善すべきである	不明	非該当
Y軸合計	247 100.00	44 17.81	59 23.89	140 55.68	4 1.62	0
帰国生	161 100.00	33 20.50	47 29.19	78 48.45	3 1.86	0
一般生	71 100.00	10 14.08	10 14.08	50 70.42	1 1.41	0
不明	15 100.00	1 6.67	2 13.33	12 80.00	0 0.00	0
非該当	0	0	0	0	0	0

カイ自乗検定　P<0.01

表12　　日本人が就きたがらない職業に就くことに関して

	X軸合計	押しつけるのはよくない	やむを得ない	希望により就いてもらう	不明	非該当
Y軸合計	247 100.00	67 27.13	20 8.10	156 63.16	4 1.62	0
帰国生	161 100.00	49 30.43	11 6.83	98 60.87	3 1.86	0
一般生	71 100.00	12 16.90	8 11.27	50 70.42	1 1.41	0
不明	15 100.00	6 40.00	1 6.67	8 53.33	0 0.00	0
非該当	0	0	0	0	0	0

表13　日本人と同じ医療がうけられない

	X軸合計	仕方がない	どちらともいえない	改善すべきである	不　明	非該当
Y軸合計	247 100.00	18 7.29	30 12.15	196 79.35	3 1.21	0
帰国生	161 100.00	9 5.59	23 14.29	127 78.88	2 1.24	0
一般生	71 100.00	8 11.27	6 8.45	56 78.87	1 1.41	0
不　明	15 100.00	1 6.67	1 6.67	13 86.67	0 0.00	0
非該当	0	0	0	0	0	0

表14　海外での就職について

	X軸合計	どのような状況でも行く	場合によって行く	できるなら国内にいたい	絶対日本を離れたくない	不　明	非該当
Y軸合計	247 100.00	48 19.43	169 68.42	24 9.72	4 1.62	2 0.81	0
帰国生	161 100.00	33 20.50	107 66.46	16 9.94	4 2.48	1 0.62	0
一般生	71 100.00	14 19.72	50 70.42	7 9.86	0 0.00	0 0.00	0
不　明	15 100.00	1 6.67	12 80.00	1 6.67	0 0.00	1 6.67	0
非該当	0	0	0	0	0	0	0

カイ自乗検定　有意差なし

表15　海外就職したい時期

	X軸合計	独身の時	結婚後子供を持つ前	子供を持った後	いつでもよい	不　明	非該当
Y軸合計	217 100.00	82 37.79	15 6.91	22 10.14	78 35.94	20 9.22	30
帰国生	140 100.00	46 32.86	10 7.14	16 11.43	55 39.29	13 9.29	21
一般生	64 100.00	34 53.13	4 6.25	2 3.13	19 29.69	5 7.81	7
不　明	13 100.00	2 15.38	1 7.69	4 30.77	4 30.77	2 15.38	2
非該当	0	0	0	0	0	0	0

カイ自乗検定　$P<0.05$

表16　結婚後は家庭中心の生活

	X軸合計	賛　成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反　対	不　明	非該当
Y軸合計	247 100.00	67 27.13	120 48.58	44 17.81	12 4.86	4 1.62	0
帰国生	161 100.00	48 29.81	84 52.17	21 13.04	5 3.11	3 1.86	0
一般生	71 100.00	13 18.31	31 43.66	21 29.58	6 8.45	0 0.00	0
不　明	15 100.00	6 40.00	5 33.33	2 13.33	1 6.67	1 6.67	0
非該当	0	0	0	0	0	0	0

カイ自乗検定　P<0.005

表17　海外就職の不安点

	X軸合計	語学ができない	取引・業務の習慣が違う	収入の不安	ネイティブとの人間関係	雇用形態の違い
Y軸合計	247 100.00	133 53.85	74 29.96	43 17.41	99 40.08	47 19.03
帰国生	161 100.00	61 37.89	45 27.95	21 13.04	62 38.51	32 19.88
一般生	71 100.00	63 88.73	26 36.62	22 30.99	34.00 47.89	12 16.90
不　明	15 100.00	9 60.00	3 20.00	0 0.00	3 20.00	3 20.00
非該当	0	0	0	0	0	0

	社会保障の仕組みの違い	ビザの取得	その他	不安はない	不　明	非該当
Y軸合計	67 27.13	44 17.81	11 4.45	32 12.96	6 2.43	0
帰国生	38 23.60	28 17.39	7 4.35	30 18.63	5 3.11	0
一般生	24 33.80	13 18.31	4 5.63	0 0.00	0 0.00	0
不　明	5 33.33	3 20.00	0 0.00	2 13.33	1 6.67	0
非該当	0	0	0	0	0	0

カイ自乗検定　P<0.0001

表18　国際結婚について

	X軸合計	外国人と結婚したい	外国人と結婚も考えられる	日本人と結婚したい	外国人と結婚したくない	誰とも結婚しないつもり	不　明	非該当
Y軸合計	247 100.00	7 2.83	97 39.27	106 42.91	24 22.64	8 3.24	5 2.02	0
帰国生	161 100.00	7 4.35	55 34.16	71 44.10	20 28.17	5 3.11	3 1.86	0
一般生	71 100.00	0 0.00	38 53.52	27 38.03	3 11.11	2 2.82	1 1.41	0
不　明	15 100.00	0 0.00	4 26.67	8 53.33	1 12.50	1 6.67	1 6.67	0
非該当	0	0	0	0	0	0	0	0

カイ自乗検定　P＜0.05

表19　外国に住む不安点

	X軸合計	言葉の問題があるから	風俗や習慣が違うから	経済的に問題が生じるから	人権侵害の心配があるから	両親に会う頻度が減るから	病気になった時心配だから
Y軸合計	247 100.00	133 53.85	79 31.98	55 22.27	45 18.22	57 23.08	60 24.29
帰国生	161 100.00	73 45.34	48 29.81	38 23.60	31 19.25	39 24.22	31 19.25
一般生	71 100.00	51 71.83	29 40.85	14 19.72	14 19.72	16 22.54	22 30.99
不　明	15 100.00	9 60.00	2 13.33	3 20.00	0 0.00	2 13.33	7 46.67
非該当	0	0	0	0	0	0	0

	子供の教育に支障がでる	治安の問題	そ の 他	不安なし	不　明	非該当	
Y軸合計	38 15.38	99 40.08	4 1.62	27 10.93	6 2.43	0	
帰国生	33 20.50	54 33.54	3 1.86	21 13.04	3 1.86	0	
一般生	2 2.82	38 53.52	0 0.00	4 5.63	2 2.82	0	
不　明	3 20.00	7 46.67	1 6.67	2 13.33	1 6.67	0	
非該当	0	0	0	0	0	0	

カイ自乗検定　P＜0.005

表20　海外留学の希望

	X軸合計	したい	したくない	わからない	不　明	非該当
Y軸合計	247 100.00	121 48.99	40 16.19	80 32.39	6 2.43	0
帰国生	161 100.00	72 44.72	30 18.63	56 34.78	3 5.36	0
一般生	71 100.00	45 63.38	6 8.45	18 25.35	2 11.11	0
不　明	15 100.00	4 26.67	4 26.67	6 40.00	1 16.67	0
非該当	0	0	0	0	0	0

カイ自乗検定　P＜0.05

表21　海外留学したい国

	X軸合計	東南アジア	インド・パキスタン	中近東諸国	ロシア・東・北ヨーロッパ	西ヨーロッパ諸国	オーストラリア・ニュージーランド	中南米諸国	アメリカ
Y軸合計	121 100.00	12 9.92	6 4.96	6 4.96	12 9.92	56 46.28	42 34.71	11 9.09	88 72.73
帰国生	72 100.00	5 6.94	1 1.39	0 0.00	3 4.17	27 37.50	17 23.61	1 1.39	48 66.67
一般生	45 100.00	6 13.33	4 8.89	5 11.11	7 15.56	27 60.00	24 53.33	9 20.00	37 82.22
不　明	4 100.00	1 25.00	1 25.00	1 25.00	2 50.00	2 50.00	1 25.00	1 25.00	3 75.00
非該当	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	カナダ	中　国	韓　国	台　湾	アフリカ諸国	その他	不　明	非該当	
Y軸合計	42 34.71	8 6.61	7 5.79	5 4.13	10 8.26	1 0.83	12 9.92	126	
帰国生	17 23.61	2 2.78	1 1.39	0 0.00	4 5.56	1 1.39	11 15.28	89	
一般生	24 53.33	5 11.11	5 11.11	4 8.89	5 11.11	0 0.00	0 0.00	26	
不　明	1 25.00	1 25.00	1 25.00	1 25.00	1 25.00	0 0.00	1 25.00	11	
非該当	0	0	0	0	0	0	0	0	

カイ自乗検定　P＜0.005

表22　海外留学の不安点

	X 軸 合 計	語学面での問題	取 得 し た 単位の有効性	学費などの経済的問題	授業方法の日本との差	就職活動での留学の有効性
Y軸合計	247 100.00	148 59.92	35 14.17	105 42.51	89 36.03	40 16.19
帰 国 生	161 100.00	82 50.93	26 16.15	66 40.99	58 36.02	34 21.12
一 般 生	71 100.00	58 81.69	7 9.86	31 43.66	27 38.03	4 5.63
不　明	15 100.00	8 53.33	2 13.33	8 53.33	4 26.67	2 13.33
非 該 当	0	0	0	0	0	0

	不 安 な し	そ　の　他	治 安 問 題	不　　明	非　該　当	
Y軸合計	33 13.36	5 2.02	78 31.58	11 4.45	0	
帰 国 生	28 17.39	5 3.11	41 25.47	6 3.73	0	
一 般 生	3 4.23	0 0.00	33 46.48	3 4.23	0	
不　明	2 13.33	0 0.00	4 26.67	2 13.33	0	
非 該 当	0	0	0	0	0	

カイ自乗検定　P＜0.0001